

景況感調査「沖縄点気」

～ 2014年9月調査～

～ 70点でやや好調 観光、建設関連がけん引。今後は利益の安定確保が課題～

今回の9月調査では、前回6月調査と同点となり、やや好調の状態が続いている。観光客は堅調に増加。特に外国人観光客の増加が著しい。建設関連の受注や一般消費も拡大傾向にあるが、各種コスト増により利益確保が難しくなっている。

関連分野別動向

観光関連 前回75点→今回82点

8月の台風襲来時に一時的なキャンセルなどあったが総じて好調。昨年好調だった石垣島は落ち着き、宮古島に活気がみられた。観光客の内訳では今年度は、外国人観光客の増加率が5割近い状態が続いている。年末にかけ団体旅行シーズンとなるが、観光バス確保が例年の課題。現時点でも相当数の不足が予想される。

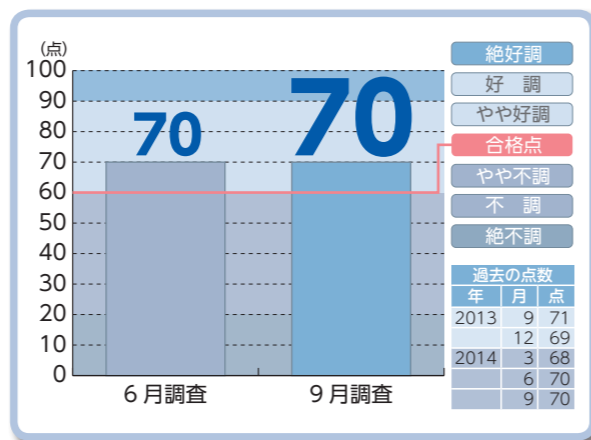
建設関連 前回76点→今回78点

昨年度受注案件の工事が進捗している。新規の戸建て住宅の問い合わせは落ち着いている。

マンション販売が好調なため、マンション販売に乗り出す事業者も出てきた。

食品関連 前回64点→今回61点

台風の影響により、一時的に売上げが伸びた業界もある。様々なコスト上昇が続いているた



め、利益確保のための具体的な施策を展開する事業所が増加してきた。

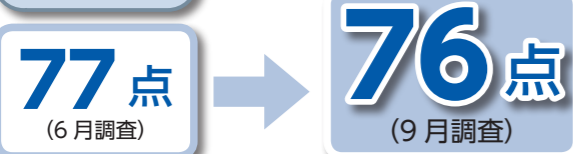
消費・サービス関連 前回59点→今回60点

自動車販売では、新車・中古車とも購入に慎重になる消費者が増加している。IT関連は受注が好調な一方で、人手不足がより深刻化している。

「沖縄点気」… 数字による客観的評価と、経営者の心持や社会情勢等を合わせて、沖縄の景況感を100点満点で評価したもの。経済データ分析に基づいた経済指標評価、県内企業30社へのヒアリング調査、社会情勢評価など、独自の手法により、それぞれ100点満点で評価し、加重平均することにより沖縄点気を算出。



経済指標評価



	6月調査	9月調査
経済指標総合評価	77点	76点
観光関連	80点	80点
建設関連	90点	83点
食品関連	70点	70点
消費・サービス関連	63点	67点

【KRI アウトLOOK：景況感調査「沖縄点気」～ 2014年9月調査～】

ヒアリング評価

観光関連は、オンシーズンにもかかわらず団体客受け入れが好調だった。建設業界では、受注案件は多いものの利益を確保しにくい状況。さらに、人手不足のため対応できない事業者が多い。食品関連は、値上げを実施するも様々なコスト上昇に対応できていないケースが多く見られる。消費・サービス関連では、新車・中古車販売の勢いにブレーキがかかっている。IT業界は好調を維持しているが、建設業界同様人手不足のため、増加する案件に対応しづらい状況にある。



指標(点数)の見方			
6月調査時の点数	9月調査時の点数	3カ月後の点数	
65点	66点	68点	

	6月調査	9月調査	3カ月後
ヒアリング総合評価	65点	66点	68点
観光関連	74点	80点	79点
建設関連	70点	73点	72点
食品関連	59点	52点	62点
消費・サービス関連	57点	58点	59点

※ 2014年6月調査時の点数が“-”の事業所は、前回調査非対応先

観光関連



「ホテル」 80点→90点→80点	売り上げは前年を上回っている。今期は客が少ない連休明けの時期にポイントを絞って早割等の強化を行ったため、WEB販売が好調であった。団体客受け入れも順調に推移しており、個人客、海外客の伸びから10月以降も順調に推移すると見込んでいる。
「ホテル」 70点→70点→50点	現状は昨年の実績を超えている。まだ国内客が占める割合が多い。これから修学旅行シーズンとなるが、問い合わせ・予約状況は例年並み。食材・電気・重油などのコスト上昇の吸収はもはや限界。清掃員も不足しており、当社のスタッフが代わりを務める事もある。
「旅行会社」 90点→95点→95点	非常に好調であった前年を上回っている。離島の予約状況として、八重山は前年比2割減で低迷し、宮古は前年比2倍の月があるなど好調となっている。今後は外客受け入れ専門の関連会社の沖縄営業所を立ち上げ、外国人受け入れに注力したい。
「旅行会社」 90点→95点→90点	夏場にはめずらしく大口の社員旅行を受注でき、絶好調だった前年をさらに上回る業績となった。客室の確保が難しく、分宿や4人部屋対応(通常は2人)などで対応した。客室確保がしやすくなる年末にかけては中国やタイ、マレーシアからの受け入れを増やしたい。
「旅行会社」 60点→57点→90点	8月の台風の影響やホテルの空室不足などの影響により実績は前年割れ。一方、海外客の増加が顕著。通年では全体の4割に達する勢いである。ICチップ入りのリストバンドとスマホアプリを組み合わせた海外客向けのサービスを始めた。今後の利用拡大に期待したい。
「交通」 70点→60点→75点	個人客も利用可能な定期観光バスは順調。特に海外客の利用が増加しており5割に達する勢いだ。美ら海水族館へ行くコースでは、9割が外国人となっている。例年バス不足が深刻化している。現時点で相当数のバスが不足するとみられる。
「レンタカー」 68点→90点→70点	本島と宮古島地方では好調だったが、石垣島は前年を割り込んだ。10～12月の予約状況は前年並み。これからオフシーズンに向かい国内客は減少傾向になるが、海外路線増加が予定されているため、国内客の減少分を補完できるのではと期待している。

建設関連



「建設資材」 70点→75点→60点	昨年受注した案件があるため現場は忙しい状態が続いているが、資材・人件費等のコスト上昇のため利益確保が難しくなっている。コンクリート住宅の建設単価も80万円を超えるケースも珍しくなくなってきた。円安によるコスト上昇が懸念される。
「電気工事」 80点→80点→80点	受注状況は順調。辺野古での米軍関連工事も順調に進んでいる。一括交付金関連の公共工事発注が増加しているが、それでも好況時に比べれば、まだ少ない方だ。電気工事関連の事業者には本土などへ人材が流出するという話はあまり聞かない。
「建設」 60点→60点→60点	昨年度決算は増収増益となり、やっと数年前の水準に戻ったという感じだ。想定ではあるが、今期は昨年より多い売上げが見込めそうだ。様々なコストが上昇し、業界を取り巻く環境は厳しさを増しているが、売上げだけでなく利益を安定させる事に注力していきたい。

「マンション」 - 点 → 60点 → 60点	小禄でマンション建設を進めている。マンション販売が好調なため、新しくマンション販売に乗り出す会社も少なくないが、うまくいっていないケースもある。販売が好調なマンションの中には、契約数の半数が現金購入という物件もある。契約者の中には外国人もある程度いるようだ。
「住宅」 - 点 → 100点 → 100点	売上目標をほぼ達成できている状況。本島南部で売り出した分譲住宅は1カ月足らずで成約数が半数を超えた。新規事業として、中部地区に70戸程度のマンション建設を計画している。金融機関の貸し出し姿勢がより積極的となり、優遇金利幅も一段と大きくなっている。
「住宅」 80点 → 55点 → 70点	7～9月は新築の相談案件が少なかったが、リフォームの問い合わせは多かった。当社だけでは対応できず、他社を紹介する事もあった。人手不足のため工期を明確に出ない状態。今後は、定額注文住宅販売の開始と、高齢者向け住宅建設を進めていきたい。
「アパート」 70点 → 75点 → 70点	人手不足の常態化とアパート建設単価の上昇が懸念材料。人手不足のため建設中の物件の中には工期が3～4カ月遅れているものがある。建設単価が坪当たり60～70万円となっており、以前の戸建て並みになっている。
「不動産」 75点 → 75点 → 75点	国際通りと浦添地区へ進出を希望する県外飲食店からの相談が多い。名護市の地価の動きが大きくなっており、場所によっては3倍近くまで値上がりしている地域もある。大手外資系テーマパーク進出に関する情報が影響しているようだ。

食品関連



「食品製造」 60点 → 60点 → 75点	県内消費は低迷が続いている。空港やDFSでの売上げが良い。香港の観光客が買っていくようだ。香港、上海での売上げが好調。香港は販路を3つに増やした。ヨーロッパ人観光客向けの販促を始めている。空手を絡めたアイデアを考案中。
「食品製造」 65点 → 50点 → 50点	売り上げは微減。県外催事の売り上げが落ち込み、県外出荷も減少した。購買力の高い外国人観光客が多いが、地場産業への波及効果は感じられない。最近パターの供給不足により、価格が高騰している。そのため、大手メーカーが買い占めるといった動きも出ている。
「食品製造」 53点 → 50点 → 53点	外国人観光客は増えているが、県産品消費には影響がないように思う。今後は他社とコラボした商品展開や材料を提供していく予定。シンガポールとの直行便も開設されるため、海外展開を視野に入れた県内留学生の採用を検討していきたい。
「食品製造」 50点 → 35点 → 40点	材料費やエネルギーコスト上昇のため主力商品を一度値上げしたが、まだコスト上昇分を吸収できる状態ではない。その上、消費者離れが起こり、売り上げが半減してしまった。主力商品の消費量回復のため、年末の歳暮商戦に力を入れていきたい。
「食品製造」 60点 → 53点 → 52点	7月に小麦粉が値上げされるなど、原材料価格は高止まり状態。上昇するコストを吸収し生産効率を上げるため、商品数を減らすことも検討している。人手不足のため、派遣会社を通して外国人留学生を採用している。
「漁業」 60点 → 65点 → 65点	マグロの水揚げ量は前年比1.5倍。伊勢エビやセミエビの水揚げ量が増加し、価格も安定している。エビ類は主に観光客向けに需要がある。価格の安定は、沖縄観光の好調さを反映しているのではないかと。
「農業」 65点 → 50点 → 100点	全国的な大雨の影響で県外からカットパイン、加工マンゴーなどの注文が多かった。6月に収穫できなかった甘しょが8月に収穫され、8月以降の収穫量は増加したが品質が低下した。国の総合化学事業計画補助金申請が認定され、来年3月の工場完成に向け準備中。

消費・サービス関連



「外食」 65点 → 65点 → 65点	海外客向け店舗では客単価が高く売り上げも伸びているが、国内客および県内客向け店舗では客単価が減少している。当面は、海外客向け店舗に注力するため、不採算店舗の整理を進めている。ただし、食材価格などのコスト上昇への対応は追いついていない。
「外食」 60点 → 65点 → 65点	売り上げ、客数、単価とも昨年比で増加している。外資系ファストフード店舗の売り上げが大きく落ち込んでいる。幾分か当社は利用するお客様が増加しているかもしれない。消費税増税時や円安時に値上げを実施したが、売り上げに影響は出ていない。
「小売」 55点 → 60点 → 60点	消費税増税の影響はほぼ解消されたが、衣料品の売り上げが伸び悩んでいる。老舗デパートが閉店した後、消費者をいかに取り込めるかが今後の課題。さらに、現在の円安基調がいつまで続くのか？原材料等の高騰は頭の痛いところだ。
「中古車販売」 60点 → 65点 → 65点	売れ方の傾向に変化が出てきた。中古車フェアより店舗販売の成約率が高くなっている。中古車フェアの来場客は実車を見た後に検討するというケースが増えている。店舗を訪れるお客様は欲しい車の情報を事前にネットなどで調べており、購買意欲が高いのではないかと。
「中古車販売」 45点 → 35点 → 35点	販売実績は前年比4割減。消費税増税後に来店数が4割程度減少し、成約率は横ばいの状況。消費税増税後、お客様が競合である正規ディーラーに流れてしまったのが大きな要因。年末にかけてもこのような状態が続くようだ。

「自動車販売」 50点 → 50点 → 60点	販売台数ではレンタカー向けが好調。自家用車の落ち込みをカバーしているがレンタカーは利益率が低い。そのため自家用車が戻らないと厳しい。ただし、イベント開催による集客効果や、9月の売り上げが前年比10%増となるなど、回復の兆しは感じている。
「IT」 60点 → 60点 → 60点	引き続き需要があり、業績はかなり良い。10月から実施される外国人旅行者向け消費税免税制度の変更に合わせたシステムの販売を開始した。募集し続けていた人材を8月によく採用できた。応募者の多くが40代で20～30代の人材不足が顕著になっている。
「IT」 65点 → 65点 → 65点	開発型案件やインフラ構築案件の受注が増えている。年度末にかけては同様の案件が継続的に入ってくる見込み。IT業界は受注案件が多く、人手不足の状況。県内の官庁案件については昨年度と同規模で推移している。

社会情勢評価

今年度は、外国人観光客増加率が昨年比5割程度の状況が続いている。全体的にも昨年を超える勢いはあるが、受け入れ態勢は限界にきており、来年度以降を危惧する声も聞かれる。建設関連では、人手不足のため新規案件に対応できないというのが大方の意見である。食品関連は、観光客増加による県内市場への波及効果が少ないという意見もある。値上げによる消費者離れに苦しむ事業者もみられた。消費・サービス関連では、自動車販売で消費税増税による強い影響がみられた。IT業界は好調を維持しているが、能力のある人材不足が懸念材料のようだ。



社会情勢総合評価	6月調査		9月調査	
	74点	72点	3カ月後	加算減算項目
観光関連	90点	87点	79点	8点
建設関連	76点	77点	72点	5点
食品関連	69点	61点	62点	▲1点
消費・サービス関連	61点	61点	59点	2点

※ヒアリング調査における3カ月後の見通しに、今後の社会情勢を弊社にて加味し、加算減算したもの

観光関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 円安続伸による観光客増加	1. 航空座席数、ホテル客室数、バス台数などインフラのキャパ不足
2. LCC就航・路線拡充による観光客増加	2. 観光人材の不足
3. 新石垣空港開港による観光客増加	3. 観光産業従事者の低待遇問題
4. クルーズ船寄港回数増加による外国人観光客の大幅増加	

建設関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 新築マンション販売やアパート建設需要の堅調な増加	1. 職人不足と賃金の上昇
2. 金融機関の積極的な融資姿勢	2. 資材価格の高騰
3. 本土企業による不動産物件賃貸需要	3. 不動産販売価格の上昇
4. 中古住宅販売やリフォーム需要など新しい市場への対応	4. 新しい人材育成の遅れ

食品関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 観光客増加による売り上げ増への期待	1. 商品値上げによる、消費者離れの懸念
	2. 円安に伴う原材料価格やエネルギー価格の高騰

消費・サービス関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. IT業界好調による人材獲得競争増加	1. ガソリン価格の高騰
2. 観光客の消費は好調に推移	2. 世界的な生産コスト上昇に伴う販売価格の上昇の可能性
3. 人口増加による小売業の好調	